

「北海道旅行」

2015年07月22日

北海道旅行をしてきた。神学生時代、夏期伝道実習で無牧だった「倶知安伝道所」に1ヶ月くらい滞在したことがある。50年ぶりの北海道であった。レンタカーで、妻の運転で1,362kmを走破した。フーテンの寅さんがひなびた「宿屋」の二階から「おばちゃん、2、3本持って来て」と言うような、気ままな旅をしたかったが、そんな宿屋はない。しかも夏の北海道はホテルが満室であると聞き、慌ててホテルを予約した。

聞いたことがなかった「女満別空港」に降り立ち、高倉健が「どうせ、おいらの行く先は、その名も網走番外地」と歌う網走から始まった。船から知床半島の奇岩を眺め、野付半島に行き、国後、択捉を見たかったが、曇り空で見えなかった。壮大な釧路湿原を見、摩周湖に行った。人の手が全く入っていない神秘的な湖で、なるほど歌になる湖だと思った。屈斜路湖で、アイヌ資料館を訪ねた。自然を崇拜して生きた彼らは北海道開発と共に苦難を負った。美幌峠は北海道の広さを実感させられた。美幌峠を歌った美空ひばりの演歌が四六時中流されていたが、女の愛の未練を歌っていて、美幌峠の大きさには不釣り合いであった。層雲峡を見上げ、旭川に行った。有名になった動物園を楽しんだ。三浦綾子記念文学館の中には入れなかったが、周りの林は見ごたえがあった。美瑛に行き、広くて美しい畑と花畑を見た。これまで開発するために、どれほどの苦労があっただろうかと心を打たれた。4代目という農作業していた人に今も、作物の品質に関する苦情や天候に因る苦労が絶えないと聞いた。旭岳は青空の下、高山植物を見ながら散策を楽しんだ。泊まったホテルは源泉かけ流しが売りで、満天の星空も久しぶりに満喫した。

妻が生まれた岩見沢に行き、岩見沢教会を訪ね、牧師夫妻としばし歓談した。札幌に行き、同級生の雨貝行麿氏と会った。大学の教務教師をしてきたが、教会との深い交わりを持っていた。東京神学大学、現在の教団執行部の排他的で権力志向のあり様に批判的な話に意気投合した。横浜港南台教会員だったS、Kご夫妻と再会し、6名で懐かしい話をしながら楽しい夕食をいただいた。札幌では北海道大学のポプラ並木を見た。広い敷地で、恵まれた環境の大学で勉強できる学生は幸せだと思った。スケールが大きくなるだろう。

支笏湖、洞爺湖を見、昭和神山を仰いだ。50年前、洞爺湖の土産物店に小熊が鎖に繋がれていたのを思い出した。高速に乗って函館に向かう途中、大雨に遭った。函館に近づくと天気になったので、大沼公園に立ち寄った。ミニ松島に見えた。

函館で日曜日を迎え、函館教会で礼拝を守った。函館教会は妻の父・菊池吉弥牧師が青年時代に過ごした教会で、ここで、牧師への献身へと導かれた。古い教会で、菊池青年が賛美した同じ会堂で礼拝を守れたことに深い感慨を持った。M姉の義弟ご夫妻が函館を丁寧に案内してくださった。諸々の教派の会堂、歴史を感じさせる古い建物、五稜郭、菊池牧師が尊敬したウィリアム・レニー先生の記念碑などを回った。夜は、新鮮な寿司を本当に美味しくいただいた。翌朝、函館山に上り一望し、帰途に着いた。

北海道はまず広い。高原は壮大で、山々も大きい。原生林の中の真っ直ぐな道路を前後に車はなく、対向車もなく、文字通り「マイウェイ（私だけの道）」を走った。そして、美しい。森の緑が印象的だった。自然は人の手が入ってくると汚れてくるのだと知った。船からヒグマ、車上から鹿、北キツネ、徒歩でシマリスにも出会った。更に、食べ物が美味しかった。特に、魚が甘くて、美味であった。ただ一つ、トウモロコシを食べ損ねた。親しい友とも出会い、広く、美しく、美味しい北海道を満喫し、大満足の旅行であった。